

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991700046		
法人名	(株)イーエルイー		
事業所名	グループホーム カーサ西八幡		
所在地	山梨県甲斐市西八幡1707-1		
自己評価作成日	平成29年10月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成29年10月30日{月}		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>◎その人らしく暮らせるように、快適で家庭的な生活をサポートします。 ◎心を込めた親切なサービスに努め、その心を磨き続けます。 ◎さまざまな機会を通じ、地域の人々とのふれあいを大切にします。の3つの【理念】を念頭に置きながら、認知症のご入居者様がマイペースに、自分らしく生活が出来るように職員は支援している。日々の散歩や外出レクなど、施設にこもるのではなく、なるべく外へ出る機会を作り、体を動かす事も実施している。また、ご本人様やご家族様の希望により、在宅医や訪問看護とも連携を取りながら看取りやご入居者様の健康管理も行っている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は総合公園のすぐ近くにあり、近日大型商業施設がオープン予定の通りに近い新興地域の一角に位置する。小学校、保育園も近く、付近には田畑・果樹園も見渡すことのできる落ち着いた環境である。家族に月1回、担当の職員と管理者が便りを送り、相互に連絡を取り合って支援しているので、協力も多く、利用者の表情も明るく家族も安心して生活している。各階の玄関の談話室は利用者のひと時の憩いの場になっている。同法人のサービス付高齢者住宅と利用者が継続的な関係で交流をしている。職員の要望で、2ユニット全員が参加しての外出に行きたいと、常に前向きな気持ちを持って支援を行っている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム カーサ西八幡**

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(さくら)	ユニット名(けやき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員に、理念に基づいた支援が出来るよう、意識の共有を図るようにしている。	入浴の時間だけは職員の配置が多い時間と決めているが、毎日入りたい方は毎日でも入浴可能となっている。	3つの理念を共有フロアに貼って実践に繋げている。月1回のフロア会議にて、職員間で利用者のニーズに添った具体的なケアについて意見の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会活動である防災訓練には、ご入居者様と職員で参加し、地域の方と交流している。また、今年から始めたキュウメディカルタウン内の納涼祭に近所の方も参加して頂き、交流を深められるようにしている。	地域の自治会活動である防災訓練には、ご入居者様と職員で参加し、地域の方と交流している。また、今年から始めたキュウメディカルタウン内の納涼祭に近所の方も参加して頂き、交流を深められるようにしている。	今年度から同法人の事業所が集まっているキュウメディカルタウン内での納涼会を開催(主に法人の介護施設が中心)に参加している。また地域の防災訓練に参加して地域の高齢者と会話をしている。自治会に加入しており、月の予定表を頂いて参加するようにしている。散歩時の交流や、ボランティアに来所して頂いている。	近隣に住む人達と触れ合う機会を持つためにも、積極的に地域に発信するチャンスを作り、多くの住人に事業所の様子など知ってもらい、家族も希望しているボランティアを受け入れる努力をすることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人のデイサービスと共同で、認知症サポーター研修をこれまでに2回開催し、ご近所の方に参加して頂き、理解を深めて頂きました。また、施設内で行なう納涼祭にも近隣の方にも参加して頂き、施設内の見学や、施設への理解を深めて頂いている。	同法人のデイサービスと共同で、認知症サポーター研修をこれまでに2回開催し、ご近所の方に参加して頂き、理解を深めて頂きました。また、施設内で行なう納涼祭にも近隣の方にも参加して頂き、施設内の見学や、施設への理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市代表(市職員)、地域代表(元自治会長)、ご家族様、ご入居者様、職員で2ヶ月に1回開催。運営推進会議で意見はすぐフロアーの職員に伝え共有し改善するべき所は改善し、より良い支援につなげている。	市代表(市職員)、地域代表(元自治会長)、ご家族様、ご入居者様、職員で2ヶ月に1回開催。運営推進会議で意見はすぐフロアーの職員に伝え共有し改善するべき所は改善し、より良い支援につなげている。	会議では、事業所からの報告や参加者からの意見・要望を受けている。会議の内容は欠席した家族全員に配布している。家族が参加できる催物を行って欲しいとの要望に応じて、納涼会、秋祭りを開催し、昼食を利用者と一緒に食べる機会を設けた。また、ボランティアを多く受け入れて欲しいとの意見が出ているので、地域のボランティアの協力を模索している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困ったことがあれば、運営推進会議や直接市役所に出向くなどし、相談している。	困ったことがあれば、運営推進会議や直接市役所に出向くなどし、相談している。	市町村担当者に転倒事故等の報告や、利用者の状況、対応支援の内容等の相談をしている。外部の通所介護「デイサービス」に通いたいという要望があり、の件については市職員と相談して自費で通うことになった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。また、スピーチロックや4方向のベット柵、施錠することなども身体拘束になる事を伝え理解してもらい、行なわないようにしている。	身体拘束はしていない。また、スピーチロックや4方向のベット柵、施錠することなども身体拘束になる事を伝え理解してもらい、行なわないようにしている。	一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かく把握して鍵をかけずに生活しているが、食事や入浴の際に職員の見守り体制が薄くなるため、一時的に鍵をかける事もある。職員は身体拘束については理解しており、年2回研修会を実施、新人研修時に身体拘束の勉強会を行って理解を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はしていない。会議等で虐待防止の勉強会を開催している。今後は虐待防止委員会を立ち上げて虐待防止に努め、職員へのストレス軽減も考慮した対話を心がけている。	虐待はしていない。会議等で虐待防止の勉強会を開催している。今後は虐待防止委員会を立ち上げて虐待防止に努め、職員へのストレス軽減も考慮した対話を心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については、研修の機会があれば是非参加をして、職員と共に知識を深め活用できるようにしていきたいと思っています。	成年後見人制度については、研修の機会があれば是非参加をして、職員と共に知識を深め活用できるようにしていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は変更等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分に時間を取り、ご入居者様、ご家族様が納得いただくまで説明をしている。入居された後も、不明な点があればその都度答えるようにしている。	契約の際は十分に時間を取り、ご入居者様、ご家族様が納得いただくまで説明をしている。入居された後も、不明な点があればその都度答えるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム カーサ西八幡**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(さくら)	ユニット名(けやき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、ご入居者様やご家族様とは、意見交換しやすい関係が出来ており、何気ない会話からも意見を聞き取り、改善につなげるようにしている。また、定期的に運営推進会議を実施し、そこで出た意見を取り入れ、より良い支援につながるようになっている。	日頃から、ご入居者様やご家族様とは、意見交換しやすい関係が出来ており、何気ない会話からも意見を聞き取り、改善につなげるようにしている。また、定期的に運営推進会議を実施し、そこで出た意見を取り入れ、より良い支援につながるようになっている。	面会時、個人の意見・要望は家族が職員に伝えて、日々の様子や変化を把握している。家族に月1回「お便り」を送り、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに励んでいる。推進会議の時、家族から出た意見はミーティングで話し合っ、反映させる様になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各フロア会議などで、職員の意見を聞き、運営に反映させるようにしている。	毎月各フロア会議などで、職員の意見を聞き、運営に反映させるようにしている。	年2回の面談を行って職員からの意見・要望を聞く機会を持っている。毎月のフロア会議で出た備品等の要望は検討して購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の社長、管理者等は、各職員の良い面を把握し、より伸ばしていけるように声掛け・指導している。また、各職員の労働条件などを把握し働きやすい環境になるように心がけている。	法人の社長、管理者等は、各職員の良い面を把握し、より伸ばしていけるように声掛け・指導している。また、各職員の労働条件などを把握し働きやすい環境になるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職の経験が浅い職員が多い為、まずは現場で管理者やリーダーが、丁寧に教えるようにしている。また、フロア会議で勉強会を行ったり、グループホーム協会の研修にも参加し、知識を増やしてもらうようにしている。	介護職の経験が浅い職員が多い為、まずは現場で管理者やリーダーが、丁寧に教えるようにしている。また、フロア会議で勉強会を行ったり、グループホーム協会の研修にも参加し、知識を増やしてもらうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の施設と共同で外部から講師を招き研修会を開催している。また、他施設研修を行ない他のグループホーム職員と交換研修を行なっている。	同法人の施設と共同で外部から講師を招き研修会を開催している。また、他施設研修を行ない他のグループホーム職員と交換研修を行なっている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居者様とは、納得がいくまで話しをし、不安感が無いようにしたうえで、サービスの導入を行なっている。	ご入居者様とは、納得がいくまで話しをし、不安感が無いようにしたうえで、サービスの導入を行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とは、納得がいくまで話しをし、不安感が無いようにしたうえで、サービスの導入を行なっている。また、ご入居者様の立場になり代弁者としてご家族様と支援の話し合いを行なっている。	ご家族様とは、納得がいくまで話しをし、不安感が無いようにしたうえで、サービスの導入を行なっている。また、ご入居者様の立場になり代弁者としてご家族様と支援の話し合いを行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	納得がいくまで話し合いを行ない、情報収集をし色々な方面からみて判断が必要であれば他のサービス利用も検討しながら、施設での生活が快適に行えるように支援している。	納得がいくまで話し合いを行ない、情報収集をし色々な方面からみて判断が必要であれば他のサービス利用も検討しながら、施設での生活が快適に行えるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは生活の場であって、職員は家族のような存在であるという気持ちをもつようになっている。よって、家族のように温かい気持ちでご入居者様に接することができ、ご入居者様も楽しく生活が出来ていると思う。	グループホームは生活の場であって、職員は家族のような存在であるという気持ちをもつようになっている。よって、家族のように温かい気持ちでご入居者様に接することができ、ご入居者様も楽しく生活が出来ていると思う。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム カーサ西八幡**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(さくら)	ユニット名(けやき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、入居時に面会が自由にでき、ご入居者様も心待ちにしている方が多い事をお話している。ご家族様も頻りに面会に来ることが多く、その都度様子なども伝えることができ、施設だけでなくご家族様も協力して介護に携わっていると意識されている方が多いように思う。	ご家族様には、入居時に面会が自由にでき、ご入居者様も心待ちにしている方が多い事をお話している。ご家族様も頻りに面会に来ることが多く、その都度様子なども伝えることができ、施設だけでなくご家族様も協力して介護に携わっていると意識されている方が多いように思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同法人からの入居もある為、そこからのご友人が遊びに来られてお茶を飲みながらお話しされている。	同法人からの入居もある為、そこからのご友人が遊びに来られてお茶を飲みながらお話しされている。	馴染みの人と継続的な交流ができるよう働きかけている。昔から利用している美容院やお墓参り、外食など、家族の協力を得ながら継続している。家への外泊や、帰宅願望の強い利用者の要望など家族の協力で一人ひとりの生活習慣を尊重し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士で会話が成立することが難しいので、職員が中に入り、スムーズに会話ができるようにしている。	ご入居者様同士で会話が成立することが難しいので、職員が中に入り、スムーズに会話ができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、必要があれば相談、支援に応じている。	サービス終了後も、必要があれば相談、支援に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずはご本人様に聞いて、可能な限り希望に添えるようにしている。ご本人様が言えない場合は、これまでの生活歴やご家族様に意見を聞き情報収集をして、ご本人様の希望に添えるような支援を心がけている。	まずはご本人様に聞いて、可能な限り希望に添えるようにしている。ご本人様が言えない場合は、これまでの生活歴やご家族様に意見を聞き情報収集をして、ご本人様の希望に添えるような支援を心がけている。	一人ひとりの思い・希望・意向の把握に努めており、家族と一緒にカラオケや、温泉に行ったりしている。意志疎通が困難な方には発した言葉や表情などから支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴、家族関係、趣味など、情報収集を行ない、家にいた時と同じような生活が継続して施設でもできるようにしている。	これまでの生活歴、家族関係、趣味など、情報収集を行ない、家にいた時と同じような生活が継続して施設でもできるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事と入浴以外には、あまり細かい決まりを作らず、マイペースに生活ができるようにしている。	食事と入浴以外には、あまり細かい決まりを作らず、マイペースに生活ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のフロアー会議で、各ご入居者様のカンファレンスを行なっている。また、ご家族様にも意見を伺い、介護計画に反映させている。	月に1回のフロアー会議で、各ご入居者様のカンファレンスを行なっている。また、ご家族様にも意見を伺い、介護計画に反映させている。	入居の暫定プラン作成し、その後本人の状況を全職員が把握し家族・本人の思いや意見を取り入れて介護計画を作成する。月1回のカンファレンスで検討して現状に即したサービスを提供出来るような介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に支援経過を書いており、簡潔に様子がわかるように記録し、どの職員が見てもわかるようにしている。また、全体の介護記録や引き継ぎノート・気づきノートがあり、情報の共有を図るようにしている。	個々に支援経過を書いており、簡潔に様子がわかるように記録し、どの職員が見てもわかるようにしている。また、全体の介護記録や引き継ぎノート・気づきノートがあり、情報の共有を図るようにしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム カーサ西八幡**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(さくら)	ユニット名(けやき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度のニーズには、ご家族様とも相談をしながら、柔軟に対応できるようにしている。	その都度のニーズには、ご家族様とも相談をしながら、柔軟に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々や日々のお散歩時に挨拶やお話をしたり、近所のお店を利用したり、顔なじみの関係でいられるように努めている。	近隣の方々や日々のお散歩時に挨拶やお話をしたり、近所のお店を利用したり、顔なじみの関係でいられるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は、家族対応でお願いしているが、ご家族様が関われない方のご入居者様は職員対応にて病院受診している。また、通院が困難になる方はご家族様の意向により在宅医にお願いしている。	基本は、家族対応でお願いしているが、ご家族様が関われない方のご入居者様は職員対応にて病院受診している。また、通院が困難になる方はご家族様の意向により在宅医にお願いしている。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。多くの利用者は在宅医が月2回往診をうけており、家族に文書で報告している。看護師不在時には訪問看護で対応をしている。これまでの歯科に通っている利用者や、訪問歯科医の治療を受けている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と施設看護師と訪問看護ステーションが連携しご入居者様の健康管理を行なっている。夜間も電話相談や状況により訪問していただき、在宅医とも連携しながらご入居者様やご家族様が安心して生活が出来るように支援している。	介護職と施設看護師と訪問看護ステーションが連携しご入居者様の健康管理を行なっている。夜間も電話相談や状況により訪問していただき、在宅医とも連携しながらご入居者様やご家族様が安心して生活が出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご入居者様が入院した際の情報提供などは適宜行っている。また、面会やカンファレンスなどに出向き、情報把握に努めている。	ご入居者様が入院した際の情報提供などは適宜行っている。また、面会やカンファレンスなどに出向き、情報把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の希望で在宅医や訪問看護・施設看護師・介護職と連携を取りながら看取りを行なっている。施設で出来る事、出来ない事を十分に話し合い、ご本人様、ご家族様の意向を聞きながら対応している。また、看取りに関する職員研修も行い、ご入居者様やご家族様が安心して日々を過ごしていただけるように取り組んでいる。	ご本人様やご家族様の希望で在宅医や訪問看護・施設看護師・介護職と連携を取りながら看取りを行なっている。施設で出来る事、出来ない事を十分に話し合い、ご本人様、ご家族様の意向を聞きながら対応している。また、看取りに関する職員研修も行い、ご入居者様やご家族様が安心して日々を過ごしていただけるように取り組んでいる。	入居時に看取りについて説明を行い、書面で確認を取っている。在宅医の判断で重度化や終末期になった時に、家族の意向をふまえての対応を検討している。家族が訪問看護との契約をしている場合もある。職員研修で看護師を中心にグループホームでの看取りの意義等の研修や、看取り後の感想等の話し合いの場を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロアー会議などで、急変時における対応の勉強会を行っている。	フロアー会議などで、急変時における対応の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、ご入居者様と職員で防災訓練を行っている。その際、消防署に立ち合いをお願いし、意見を聞きながらご入居者様が安全に避難できるように訓練をしている。	年に2回、ご入居者様と職員で防災訓練を行っている。その際、消防署に立ち合いをお願いし、意見を聞きながらご入居者様が安全に避難できるように訓練をしている。	年2回昼夜を想定して通報連絡の訓練をしている。1回は消防署が来所して消火器、ADEの使い方、避難方法の指導などを受けている。トランスポートチェア(2人対応の簡易型袋)が用意されているほか、水害マニュアルを作成している。また、地域の第1避難所として契約をしている。	避難訓練(特に夜間を制した訓練)を日常生活の中に組み入れて回数を増やし各職員が災害に対する意識を高める事と、地域との協力関係を作ること期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様は、認知症である前に、長い人生を歩んでこられた先輩である事を十分理解し、丁寧な声掛け、対応を心がけている。また、その方のペースに合わせた、ゆったりとした支援を心がけている。	ご入居者様は、認知症である前に、長い人生を歩んでこられた先輩である事を十分理解し、丁寧な声掛け、対応を心がけている。また、その方のペースに合わせた、ゆったりとした支援を心がけている。	年長者として敬意を払いつつ、利用者合った言葉かけを行っている。呼び名は家族と相談し、利用者が慣れ親しんでいる呼び名にて支援している。居室に入室する際にはノックして入っている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム カーサ西八幡**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(さくら)	ユニット名(けやき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずはご本人様に確認し、希望が言える方は希望を伺っているが、希望が言えない方は、ご家族様に聞くなどし、なるべく希望に添った自己決定が出来るようにしている。	まずはご本人様に確認し、希望が言える方は希望を伺っているが、希望が言えない方は、ご家族様に聞くなどし、なるべく希望に添った自己決定が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や、入浴の時間は決まっているが、それ以外のご本人のペースに合わせた生活が出来るようにしている。	食事の時間や、入浴の時間は決まっているが、それ以外のご本人のペースに合わせた生活が出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望に合った服装、オシャレができるように支援している。	ご本人様の希望に合った服装、オシャレができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下困難な方もいるので、状態に合わせてミキサー食にしたり、その方に合った形態で食事を提供している。また、テーブル拭きや食器拭きなど出来る事はなるべくしていただくようにしている。	嚥下困難な方もいるので、状態に合わせてミキサー食にしたり、その方に合った形態で食事を提供している。また、テーブル拭きや食器拭きなど出来る事はなるべくしていただくようにしている。	業者から真空パックになった物が2、3日分届き、味噌汁とご飯は職員が調理し、盛り付けて配膳している。時にはおやつに寒天ゼリーを作って楽しんでいる。片付けなどについては、利用者と共にやっている。ファミリーレストランや回転ずしに出かける事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は業者の栄養士が考えたバランスが良い食事を温めて提供している。嚥下の状態に合わせて食事の形態を変更し、むせがなく食事できるように工夫している。水分摂取も確認を行ない、少ない方には促したり、ゼリーを摂取していただいている。	献立は業者の栄養士が考えたバランスが良い食事を温めて提供している。嚥下の状態に合わせて食事の形態を変更し、むせがなく食事できるように工夫している。水分摂取も確認を行ない、少ない方には促したり、ゼリーを摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行ない、出来ない所は介助をしながら行っている。ご本人様やご家族様の希望があれば訪問歯科とも連携が取れるように支援している。	毎食後口腔ケアを行ない、出来ない所は介助をしながら行っている。ご本人様やご家族様の希望があれば訪問歯科とも連携が取れるように支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、各ご入居者様の排泄パターンを把握し、それに合わせて声掛けしたり、トイレ誘導し、なるべくトイレで排泄が出来るようにしている。	排泄チェックシートを活用し、各ご入居者様の排泄パターンを把握し、それに合わせて声掛けしたり、トイレ誘導し、なるべくトイレで排泄が出来るようにしている。	排泄チェック表を使用して、時間を見計らいながら誘導し、トイレで排泄している。夜間のみポータブルトイレを居室に用意して支援している利用者もいる。病院から全介助で退院してきた利用者の尿意、便意を把握して対応することで、現在トイレ誘導になった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の日課として、歩行できる方は歩行訓練をしたり、車いすの方もできる方は立位訓練なども行い、なるべく自然排便が出るように努めている。水分摂取量も把握し便秘の予防に努めているが、それでも便秘になる方には主治医と相談し、下剤等の処方をしていただいている。	日々の日課として、歩行できる方は歩行訓練をしたり、車いすの方もできる方は立位訓練なども行い、なるべく自然排便が出るように努めている。水分摂取量も把握し便秘の予防に努めているが、それでも便秘になる方には主治医と相談し、下剤等の処方をしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそって支援をしている	入浴の時間だけは職員配置が多い時間と決めているが、毎日入りたい方は毎日でも入浴可能となっている。	入浴の時間だけは職員配置が多い時間と決めているが、毎日入りたい方は毎日でも入浴可能となっている。	入浴は毎日実施しているので自由に入浴できる。一緒に入浴したい希望の時は利用者同志で入っている。入浴を拒む人は言葉がけや対応の工夫をして再度声をかけている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム カーサ西八幡**

自己	外部	項目	自己評価(実況)		外部評価	
			ユニット名(さくら)	ユニット名(けやき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は、各個人の休みたい時間に休んで頂いている。寝れない方は、落ち着くまで夜勤者とフロアで話をしたりしている。夜間不眠で、日中に影響が出てしまうような方には、主治医と相談し眠剤を処方して頂いている。	就寝時間は、各個人の休みたい時間に休んで頂いている。寝れない方は、落ち着くまで夜勤者とフロアで話をしたりしている。夜間不眠で、日中に影響が出てしまうような方には、主治医と相談し眠剤を処方して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何の薬を服用しているか、各職員にしっかり把握してもらっている。また、看護師から適宜説明を行なうようにしている。	何の薬を服用しているか、各職員にしっかり把握してもらっている。また、看護師から適宜説明を行なうようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の好きな事は積極的に行って頂くようにしている。じっくり取り組めなかつたりすることが多いが、励ましたり手伝ったりしながら支援している。	ご本人様の好きな事は積極的に行って頂くようにしている。じっくり取り組めなかつたりすることが多いが、励ましたり手伝ったりしながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか自分から希望を言える方は少ないが、歩行状況を見ながら公園まで散歩をし、車いすの方も外気浴が出来るように支援している。また、お花見・紅葉見学・外出レクなど、各ご入居者様の体調を考慮しながら出来るだけ皆で出かけるようにしている。遠方へのお出かけは、ご家族様にお願いしている。	なかなか自分から希望を言える方は少ないが、歩行状況を見ながら公園まで散歩をし、車いすの方も外気浴が出来るように支援している。また、お花見・紅葉見学・外出レクなど、各ご入居者様の体調を考慮しながら出来るだけ皆で出かけるようにしている。遠方へのお出かけは、ご家族様にお願いしている。	近くの公園に折々の機会を見つけて散歩に出かけている。お花見、紅葉狩りなど近郊の公園、美術館商店など、気分転換やストレスの発散の機会として、日頃の生活の中で多く外出支援を行っている。普段行くことが困難な場所へは、家族に協力を仰ぎ、一緒に出掛けてお茶等を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うこと 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務管理にさせて頂いているが、少額ならご本人様が管理されている方もいる。買い物に行きたいと意向があれば、付き添いを行ない支援している。	基本的には事務管理にさせて頂いているが、少額ならご本人様が管理されている方もいる。買い物に行きたいと意向があれば、付き添いを行ない支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙の希望があれば、いつでも支援している。	電話、手紙の希望があれば、いつでも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、季節感のある装飾をし、室温も適温になるように気を付けている。また、車いすのご入居者様もいる為、通路には歩行を妨げるような物は置かないようにしている。	共有スペースには、季節感のある装飾をし、室温も適温になるように気を付けている。また、車いすのご入居者様もいる為、通路には歩行を妨げるような物は置かないようにしている。	共有スペースの窓際に畳のコーナーがあり光が差し込み明るく温かい。廊下の隅々にグリーンソファが置かれて落ち着く雰囲気を作られている。廊下の壁には行事時の利用者の嬉しそうな表情の写真や、ちぎり絵、塗り絵、職員がパソコンで作成した見やすく楽しめるような工夫がされたカレンダーを貼っている。各階の談話室はひと時の休憩の場になっている。トイレは広くて使いやすく、浴室は浴槽に横座りで移動できる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、一人になれる空間は無いが、フロア以外にも所々にソファが配置してあるので、仲の良い同士が話をしたり職員と話をしたり思い思いに過ごせるように工夫している。	共有スペースには、一人になれる空間は無いが、フロア以外にも所々にソファが配置してあるので、仲の良い同士が話をしたり職員と話をしたり思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットやベットの備え付けがあるが、家で使用していた物を持ち込んで頂き、家と同じような雰囲気よく過ごして頂けるようにしている。	クローゼットやベットの備え付けがあるが、家で使用していた物を持ち込んで頂き、家と同じような雰囲気よく過ごして頂けるようにしている。	居室にはベット、クローゼット、洗面台、机、椅子を備えている。利用者はテレビ、仏壇、掲示板に写真、自作の塗り絵等、馴染みの物を活かして利用者が落ち着いてその人らしく暮らせる部屋となっている。ベットからの転倒リスクがある方には床マットで調整し、周りに危険につながるものがないか、確認をして対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設には、防犯の為に防犯カメラが設置されている。フロアや居室はバリアフリーとなっており、自由に行き来することが可能。また、カメラに頼ることなく、見守りを重視しながら、ご入居者様が安全に生活できるように心がけている。	施設には、防犯の為に防犯カメラが設置されている。フロアや居室はバリアフリーとなっており、自由に行き来することが可能。また、カメラに頼ることなく、見守りを重視しながら、ご入居者様が安全に生活できるように心がけている。		